

2012（平成24）年度前期DUOリーグ会議議事録①

【日 時】 2011（平成23）年2月26日（日） 17:00～19:00

【場 所】 筑波大学附属高校会議室

【出 席】（代表者名。下線は遅刻）

都小石川（長山）、昭和一（永井）、三菱養和（杉尾）、京華（小金丸）、都向丘（北洞）、筑波大附（中塚）、学習院（玉生）、豊南（林）、本郷（都丸）、城西（嶋野）、豊島学院（北爪）、郁文館（井上）、駒込学園（宮坂）、巢鴨（山中）、立教池袋（橋本）、獨協（神宮司）、都豊島（丹羽）、淑徳巢鴨（室橋）、都竹早（蓑田）、日大豊山（亀井）、都文京（梶山）、都足立（安藤）、都江北（玉山）、足立学園（伊藤）、都荒川商（蓑輪）、中大高（加藤）、文京区中学生選抜（丸山）、FC西巢鴨03（岸弘）

【オブザーバー：選手】

渋谷・柴田（昭和一）、大原・石井・酢谷・大久保・金山・五十嵐（筑波大附）、上野・村上（郁文館）、本橋（都小石川）

【オブザーバー：一般】

中川（城西）、志村・古澤（郁文館）、池上・鶴岡（豊南）、馬場（巢鴨）、土谷・佐藤（リサイクルプロジェクト）、三ツ矢（事務局次長）、岸（事務局長＝在ケニア。スカイプを用いて音声参加）

【議事録作成】三ツ矢（事務局）&中塚確認・修正

【議 題】

I. 2011年度後期（第32回）DUOリーグ・その後（報告・審議）

II. 各部門よりー2011年度総括・2012年度準備

1. 事業部門（玉生事業部長）

- 1) 競技部（各リーグ責任者） … リーグ編成など
- 2) 審判部（◎城西・立教池袋・日大豊山） … 審判講習会など
- 3) 技術部（◎都小石川・豊島学院・都竹早） … 講習会・交流会など

2. 管理部門（梶山管理部長）

- 1) 経理部（◎足立学園・豊南） … 会費・参加費等納入状況、2011年度決算&2012年度予算
- 2) 広報部（◎淑徳巢鴨・都向丘） … プログラム、ホームページ等
- 3) 規律部（◎京華・駒込） … 規律問題等

3. 企画部門（丸山企画部長）

- 1) 医・科学活動推進部（◎郁文館、養和、本郷） … 各種講習会等
 - 2) リサイクルプロジェクト&地域活動推進部 … 靴磨き講習会等
- ・文京区：◎獨協・昭和一・中大高
 ・豊島区：◎巢鴨・都豊島
 ・足立区：◎都江北・都荒川商・都足立

4. 事務局（三ツ矢事務局次長）

①試合結果報告のフォーマット、②チーム名の略称、③審判ランキングの集計、記載方法

Ⅲ. チェアマンより＝スタッフ会議（メールのやり取り）報告&審議

期 間：2012年2月13日（月）メール配信～2月25日（土）

場 所：ネット空間（Eメールのやり取り）

出席者：中塚（チェアマン）、玉生（事業部長）、丸山（企画部長）、梶山（管理部長）、三ツ矢（事務局次長）、土谷（リサイクルプロジェクト）

1. リサイクルプロジェクトの進め方
2. 2013年度以降の組織再編について
3. その他

<DUO リーグ会議ダイジェスト（決定事項を中心に。詳細は下記参照。）>

◆2部チャンピオンシップの結果

- 1位：昭和一
 - 2位：中大高
 - 3位：淑徳巣鴨 A
- 2部リーグ MVP：鈴木祥（昭和一）

◆2部リーグの日程会議について

日時：3月7日(水) 18:30～
場所：筑波大附

◆リバーサイドとの交流戦について

期日：3月18日（日）
場所：葛飾商業グラウンド
時間：16：30 キックオフ

◆講習会等における「手当て」の考え方について

- ・管理部にて「手当て」の対象と金額の原案を至急作成し、Eメール回覧で諮る。2011年度中の事業から適用する。

◆プログラム原稿について

- チームプロフィール：3月9日(金)
その他のファイル締め切り：3月14日(水)
- ・各チームのエンブレムを掲載

◆テーピング講習会について

日時：3月11日（日）10:00～
場所：東京リゾート&スポーツ専門学校

◆栄養講習会について

日時：3月11日（日）15：00～
場所：筑波大附

◆事務局からの提案について

- ・試合結果報告のフォーマットを統一
- ・高校名、チーム名の略称
- ・審判ランキングの集計方法

◆リーグの在り方について

- ・「個人登録料の廃止」「純粋なリーグ戦にしたい」との問題提起をもとに意見交換
- ・DUOリーグは様々な講習会があるが、「本当に必要なのか見直していくべきだ」との意見あり
- ・「予算案を作成すべき」など、財務に関する問題点が多々指摘された
- ・将来構想プロジェクトを立ち上げ、DUOリーグの今後について1年間かけて話し合うことになった

議題Ⅰ．2011年度後期（第32回）DUOリーグ・その後（報告・審議）

中塚：2部チャンピオンシップなどを含めて、昨年度の後期リーグのその後を確認したいと思います。

玉生：この前の会議の後に、行われたのは2部のチャンピオンシップです。1位、2位、3位が決定しました。23年度の試合はこれで全て終了です。

→1位：昭和一

2位：中大高

3位：淑徳巣鴨A

中塚：先ほどアウォーズを行いました。保留になっていた2部リーグのMVPも決定しました。

→2部リーグ MVP：鈴木祥（昭和一）

中塚：また優秀審判賞には審判服が贈呈されます。手配はしていますか。確か前回は管理部長が連絡を取っていたと思うのですが。

梶山：はい。すぐに手配します。

中塚：淑徳巣鴨の成瀬君に届くようにお願いします。またそれも会計の方に反映してください。

議題Ⅱ．各部門より－2011年度総括・2012年度準備

1．事業部門（玉生事業部長）

○競技部（玉生事業部長）

玉生：来年度のリーグ編成はメーリングリストでお知らせしたとおりです。事前に連絡しましたが、異議等はなかったので、この場で承認していただければと思います。

→承認

玉生：はい。それでは各リーグで準備をしていただくことになります。1部リーグはこの会議が終わった後、日程決めを行い、2部リーグはそれを受けて行いますので、2部リーグの日程会議の日を決めたいと思います。

→2部リーグの日程会議

日時：3月7日(水) 18:30~

場所：筑波大附

玉生：あとはそれぞれのリーグで役割分担も決めてもらい、メーリングリストの方でお知らせする事も忘れずにお願いします。

○審判部（◎城西・立教池袋・日大豊山）

中川：3月17日、京華高校での審判講習会ですが、既に募集人数を越えているためこの場での募集は行いません。今後の目標として、ユース審判員の更新講習会を開催できるようにと思っています。

○技術部（◎都小石川・豊島学院・都竹早）

長山：3月18日にリバーサイドとの交流戦の第2回目を行う予定です。前回の反省として、こちらは5, 60名集めて、リバーサイドは18名程度であったということで、大きな差が出たと思います。

3月18日の交流戦は、各チーム1名、主力選手を出し、その上で試合を行いたいと思います。会場は葛飾商業グラウンドで、16時30分キックオフです。2～3試合行う予定です。

→リバーサイドとの交流戦

日にち：3月18日（日）

場所：葛飾商業グラウンド

時間：16：30キックオフ

中塚：ポジションのことは考えなくてよいのですか。

長山：出てきたところを見て、また相談したいと思います。

玉生：では事業部門は以上です。

中塚：1つ補足です。現在、ルーティンで回っている各事業がどのような経緯で始まり、育ててきたのかを、いくつか確認しておきたいと思います。

資料（補足7）にあるのは、DUOリーグ審判講習会を始めた頃の話です。2000年度からDUOリーグは東京都ユースリーグ創設へ向けてアクションを起こし、プログラムを作るなど様々な取り組みを開始しました。審判講習会も2000年度から始めました。審判講習会は東京都サッカー協会が主催して、主管を各区市町村協会や連盟が行います。例えば高体連や中体連は、分かりやすいので、東京都サッカー協会としても受け入れやすい。しかし「DUOリーグとして審判講習会をやりたいのでお願いします」と言ったときに、東京都サッカー協会からすると「DUOリーグとはどういうものだ」となり、当初は受け入れてもらえませんでした。当時の東京都サッカー協会審判委員会育成部長とのやり取りの中では次のように説明されています。「DUOリーグの置かれている所属について、文京区、豊島区中心のユースサッカーリーグとの事ですが、リーグ母体は東京都サッカー協会に第2種チームとして及び個人登録がなされているか否か」という事。審判委員会のサービスは登録している人に対するものなので。また「高体連との関係はどうなっているのか」というところもあります。そして「DUOリーグの置かれている立場が明確でないと思われるので、現時点では基本的には講師派遣は困難であろうと思います」というのが、最初に言われたことです。これを受けてすぐに審判委員会育成部長と連絡を取り合って説明しました。その頃、DUOリーグモデルで東京都全域のオフィシャルリーグを作ろうということが東京都サッカー協会理事会で承認されていたこともあり、理解していただくことができました。こういう経緯があつて、DUOリーグ審判講習会が始まっているのだということを頭の中に入れておいてください。この話からは、無理だと言われても、ちゃんと説明すればわかってもらえるのだということがわかります。何もないところからはじめてDUOリーグは、このようなことの積み重ねでいまの姿になっているということを改めてご確認ください。

補足9は2003年9月のDUOリーグ通信ですが、試合日程の重みについて、チェアマンからの苦言が書かれています。「大人の都合による延期は原則としてなし」「メンバーがそろわないのではというのは理由にはなりません」「それぞれの事情を言い出したらきりがありません」などあり、それに加えて「高校生レフェリーについて」というのもこのころから触れ、何度も言っております。「普段の練習から高校生が笛を吹く機会を設けてください」「審判担当者はあらかじめ決めておいてください」

「試合中、審判担当者は本部席で生徒のジャッジを見守ってあげてください」「試合後の評価の際に、両チームの指導者はコメントも挙げてください」「卒業生を活用しましょう」…。このようなことを当時から言っています。今も同じことですのでよろしくお願いします。以上補足でした。

2. 管理部門（梶山事業部長）

○経理部（◎足立学園・豊南）

伊藤：1 つ目ですが、本日、今年度の審判費と会場費を現金で準備していますので、この会議が終わり次第お渡しします。忘れずに取りに来てください。また今年度取めて頂いた加盟費や参加費の領収書も、その時に一緒にお渡しします。2 つ目は、今年度の決算書の件ですが、このタイミングで作ってあれば良いかなと思いましたが、まだ支出が何件かありますので、決算書を作れない状態でした。もし支払いがあれば、早めに足立学園の伊藤までお知らせください。

中塚：去年はどういう形にしていましたか。

〇〇：去年はこの時点で確定していない審判服などもありましたので、仮の形で出しており、後日メンバーリングリストの方で正式なものを出していました。

〇〇：収入の部分についてはもう終わっていますので、作ることはできますが、支出の部分はまだ未確定な所があるので、追ってメンバーリングリストで流すという事でも。

中塚：あと何が出てくるのかだけ確認しましょう。2 月末日で締めだったと思います。審判講習会に関しては来年度まわしのはずです。

梶山：審判服についてですが、まだ発注をしてなかったのでこれから発注します。

中塚：支出の 1 つは審判服ですね。

長山：7 月にゴールキーパー・ストライカー講習会をやりましたが、講師として来ていただいた先生に謝礼をお渡しするのですが、その後話は詰められませんでした。

中塚：案としてはどうなっていますか。

長山：謝礼として出すのですが、2 回目の講習会に関しては、技術部のメンバー以外にこちらからお願いしてきていただいた方がいるので、その方には謝礼を出した方が良いと思います。

〇〇：講師に来ていただいた方に、いくら払うのかという事を確認した方が良いですか。

中塚：原則を確認した方が良いと思います。

〇〇：前例などはありますか。

中塚：昔の話になりますが、DUO リーグのすべての試合で、付添大人手当を出していました。それは 1 試合 1000 円でした。例えば何かの講習会で付添をした時には、付添大人手当を出してました。ですが DUO リーグの財政を圧迫してしまい、付添のお金はそれぞれのクラブで出せばよいという事になり、なくなりました。それ以降、この様な話はありません。また、靴磨き講習会で講師に来て

もらって、そこはリサイクルプロジェクトの年間契約の中でやっています。

土谷：契約かどうかは分かりませんが、最後に立て替えている分の事後報告をしている形です。

中塚：外部の方にトレーニング講習会をやってもらったことがありました。その時は三菱養和会との共催で、講師謝金の2~3万円くらいをDUOリーグから出しました。

〇〇：経理部で金額を決めた方が良いでしょうか。

中塚：この場で原則を確認し、経理部に案を出してもらって決めたいですね。原案は？

〇〇：来て頂いたという事だと、この間のゴールキーパーの方ですよ。技術部以外ということで。

長山：具体的に言うと7月の講習会では、講師としてこちらからお願いしているのは、ゴールキーパーでは小金丸先生と、ストライカーでは宮坂先生です。12月の講習会では、ゴールキーパーでは足立西の栗山先生です。

〇〇：時間はだいたい4時間くらいでした。

長山：練習自体は半日ですが、それまでに指導案を作ってきていただいたり、人数の調節など、準備の段階で色々と動いていただきました。

玉生：派遣の際に、向こう側の決まりがあれば、それに則ってお支払すれば良いと思います。特にそういうのがなければ、5000円くらいかと私は思います。あとは、そういうのが年に何回あって、どれくらい払うのかというのを見積もり、やりくりができればと思うのですが。

中塚：東京都サッカー協会のフットサル大会の大会運営では、1日5,150円だったと思います。半日だと3,150円だと思います。

〇〇：先ほど言われたように、準備などもありますので、私も5000円くらいかなと思います。

中塚：ずいぶん前に似たような話になった時に、実際に指導を行う人もいれば、その前の会議の準備等、裏の仕事をする人もいます。そのところもどのように考えるかという話もありました。

玉生：では5000円と言うことでよろしいですか。

長山：ですが結局それをどこまでの範囲まで支払うのかという話になります。例えば審判講習会でも、色々と連絡や準備された方も苦勞されたと思いますし、どこまでその5000円を適応するのかという話になります。今回の講習会では、こちらの役割分担の中での仕事としてではなくて、講師として来てもらったのであれば、はっきりすると思います。

梶山：玉生先生が言われたのは、すごくシンプルだと思います。リーグからお願いした講師に対しては出す、という事では良いのではないのでしょうか。

中塚：外部の方という事ですね。

梶山：はい。リーグ関係者以外に依頼している場合では謝礼を出す。内部のことは、今ここですぐに解決する事ではなくて、全体を見渡して、どこにどれだけの負担があるのかも見ないと、この議論は出来ないと思います。

中塚：具体的に言うと足立西のゴールキーパーの講師として来てもらった方には出すという事ですね。

梶山：はい。また、今後そういう事の講師としてお願いした場合、内部についてはどのようにするのかという事は、保留にしてこれから議論するという事にしたいと思います。

中塚：ではそうしましょう。原案もないまま話は進められないので。ですが当然足立西の栗山先生には、今年度中に謝礼をお渡しする事にしたいと思います。それは 5000 円で良いですか。

長山：すいません、1ついいですか。今の話ではっきりすると思いますが、7月に技術部としてゴールキーパーとストライカーの講習会を初めてやりましたが、技術部だけで行う事は難しかった。そこで経験のある先生にお願いすることになり、リーグ関係者ではありますが、技術部とは違う仕事でお願いしているので、そういう場合も謝礼を出す、ということになった記憶があります。今、玉生先生がおっしゃった内容での、私自身の解釈は、リーグ関係者と言うよりは、役割分担とは別で、こちらから正式にお願いしているものについては、謝礼を出すというものです。

玉生：そうです。私は、宮坂先生や小金丸先生にもお支払できたらなと思います。

小金丸：当該者なので言いにくいですが、2つに1つだと思います。梶山先生のおっしゃった、リーグ関係者以外にお支払いするか、玉生先生がおっしゃった内容にするのか、どちらかだと思います。

中塚：具体的な金額がまだ詰められていない状況なので、保留にして、次年度予算の中から、全体の会計も見ながら、全体の仕事を見渡して、会計の方で案を作ってください。

丹羽：金額は別として、自分の責任がない生徒にも教えるわけです。ですので外部などそういうことは一切関係なく、謝礼は払うべきだと思います。

小金丸：先ほど私が言ったように梶山先生の提案か、玉生先生の提案かは決められるのではないのでしょうか。この様に集まっている時だからこそ、意見を出し合って決められるのではないのでしょうか。

中塚：「見えやすい仕事」と「見えにくい仕事」があり、どこまで対象にするかということです。

梶山：予算的には、おそらく先ほどの金額 5000 円程度であれば問題はないです。ただ、あまりにも講習会が毎月の様に行われるのであれば、問題が出てくると思いますが、そうでなければ大丈夫です。

中塚：はい。この案は企画部とも関係しそうですが、丸山先生どうでしょうか。

丸山：外部の方も、リーグ内の関係の方でも、講師として依頼された方にも、謝礼は出した方が良く
と思います。今回の栄養講習会やテーピング講習会は、相手との話し合いになるかもしれません。
栄養講習会については、謝礼は発生しません。

中塚：栄養講習会のマネジメントをする、担当者にも発生しないという事ですね。

丸山：はい。役割分担で、皆さんがこのリーグを支えているので、謝礼は必要ないと思います。

中塚：審判講習会はどうですか。講師については東京都サッカー協会の基準ですよ。

嶋野：そうです。それ以外にも謝礼であれば、手伝って頂いた方にもという事でしょうか。そこに関しては、まったく今までは謝礼はないです。もし準ずるということであれば、謝礼を出しても良いと思います。私は今の話をうかがっていても、謝礼を出すならば良いとは思いますが。

梶山：会場費は、出していますよね。

嶋野：出しています。

梶山：そういう事ですよ。役割分担以外のところは出す。会場費についても、お手伝いいただくことになるので、謝礼は出すという事ですね。ただし審判部担当である場合は、そこに謝礼は発生しないという事ですね。それと同じような形でやるのであれば、役割分担以外には謝礼を出すという事になると思います。

中塚：蓑輪先生いかがですか。

蓑輪：以前、小石川で審判講習会を行った事がありました。1日ばかりなので、会場費と、携わった先生やマネージャーには、謝礼や昼食代も出しました。ただ、その金額の決め方は分かりません。

嶋野：今では高体連主催のものでは、謝礼は出ます。

中塚：そういう意味では、長山先生が初めに「担当者じゃない人には謝礼を」と言っていたのですが、担当の長山先生にも暑い中1日中いてくれることもありました。そういうところにも出していくべきだと思います。

小金丸：それは丹羽先生がご提案されたことですよ。

丹羽：つまり、自分の時間、自分の生徒を教える時間も削って、この DUO リーグのために働いているわけなので、当然謝礼は必要だと思います。額に関しては、サッカー協会や高体連より少なくとも構わないと思いますが、必要だと思います。

中塚：無償のボランティアでは長続きしないということで、お金を取っているわけです。お金が発生する事は良いですよ。1日 5000 円、半日 3000 円でどうでしょう。

橋本：すいません。先ほどから出ていますが、金額は今決めなければいけないのでしょうか。この雰囲気だと、講習会では謝礼が発生するという事は皆さん賛同されていると思います。これだけ議題は多いので、この話はここまでで良いのではないのでしょうか。

中塚：分かりました。では大枠はこれで良いですが、金額の原案がないので、それは後日全体を見て、

メーリングリストで流してください。

小金丸：良いというのは、何に対してですか。3 つあったと思いますが。部署など関係なくして、関わった人全体に払うということで良いのでしょうか。

中塚：そういうことではいかがでしょうか。もしかすると、全体のお金を見た中で、案としては2段構えになってくるかもしれないですが。

梶山：案を作る上で、役割分担以外の方をお願いした場合には支払うことを原則にしたいと思います。今回で言えば、講習会で指導していただいた、小金丸先生、宮坂先生、栗山先生に支払うという事ですね。

小金丸：長山先生も技術部ですが、講師として指導されたので、謝礼は発生すると思います。

中塚：2種類の案を作ってください。

梶山：分かりました。基本は支払う方向で作ります。

○広報部（◎淑徳巣鴨・都向丘）

室橋：前回の会議でも話に出ましたが、原稿が間に合わずに発送が遅れる事が続いています。次回に関しては、4月アタマの開幕に間に合うよう頑張りたいと思っています。特集に関して、岸事務局長のケニア日記をやりたいと思っています。メールのやり取りの中で、「サッカー関係ではなくなってしまうかもしれない」という事ですが、面白い内容になると思うので、執筆のお願いをしています。それ以外で何か特集を組みたい方がいれば、名乗り出て頂ければと思います。また締め切りについてです。3月14日に全ての原稿がそろそろ形にしたいです。チームのプロフィールに関しては、3月9日にしたいと思います。但し、異動される先生もいると思います。その場合、チームプロフィールの顧問の欄は、決まった時点で出していただくようにしたいと思います。

中塚：複数チームを出しているところについて、AとBのメンバーの割り振りがそれまでにできるかというところもあると思います。

室橋：チームによっては全員分、載せる手もあると思います。

中塚：新入生が入ってこないとわからないこともあるので、仕方がない所もありますね。では3月9日にチームプロフィールを締めきりとして、書ける範囲と言う事にしましょう。

→チームプロフィール：3月9日(金)

→その他のファイル締め切り：3月14日(水)

室橋：また今回からエンブレムを掲載するようにします。エンブレムがない所は、校章などを載せて頂くようお願いします。また配布冊数ですが、前期のパフレットは1年生の見込みを毎年ご連絡いただいておりますが、基礎調査も参考にして決めたいと思います。その後、もう少し必要であったり、不要であったりする場合は、ご連絡いただければと思います。

3. 企画部門（丸山事業部長）

○医・科学活動推進部（◎郁文館・養和・本郷）

井上：まず栄養講習会についてですが、菅泰男さんがいらっしゃいます。株式会社ニューレックスで、サバスの営業部として働いている方で、実際に日本サッカー協会に携わっています。東芝のバスケットボール部、東京電力のサッカー部等にサポートをし、2002年ワールドカップ日本代表の栄養士としてチームに帯同、ジーコジャパンの栄養士としても携わっていました。Jリーグでは鹿島アントラーズやジュビロ磐田などでも活動されていました。高校では埼玉県の浦和東など、様々な高校に回って栄養指導をされている方です。栄養摂取、食糧摂取の大切さなどを、分かりやすく説明していただけます。成長期の中高生の食事は大切な要素だと思うので、ぜひ各クラブ参加をしていただけたらと思います。

本日、栄養講習会とテーピング講習会の申込書を準備しています。参加生徒名が分からなくても、合計の人数を書いて申込みください。

またテーピング講習会ですが、毎年実施しているものです。東京リゾート&スポーツ専門学校の生徒が、テーピングの実技を指導して下さるものです。スタッフの多いクラブや、トレーナーのいるクラブは良いかと思いますが、スタッフのいないチームでは、けがをした時などのテーピングは、こういった機会ですにつけて頂ければと思います。日程は両方とも3月11日で、栄養講習会は午前中に筑波大附で、テーピング講習会は15時から東京リゾート&スポーツ専門学校で行います。栄養講習会においては、持ち物は必要ないですが、テーピング講習会は各自、38mmか50mmどちらでもよいのですが、テープを1本持ってきてください。また室内履きも必要なので、お願いします。

→テーピング講習会

日時：3月11日（日）10：00～ 会場：東京リゾート&スポーツ専門学校

→栄養講習会

日時：3月11日（日）15：00～ 会場：筑波大附

○リサイクルプロジェクト&地域活動推進部

神宮司：本日靴磨き講習会を実施いたしました。今回は、8クラブ、120名程度の参加があり、初めは50名くらいの予定でしたが、それを大きく上回る参加があり、3部構成で実施いたしました。会場は筑波大附の工芸室です。全クラブ参加というのは達成できませんでしたが、11月と合わせ、14クラブの参加がありました。

丸山：はい、ではリサイクルプロジェクトの会計報告をお願いします。

土谷：昨年末にも報告しましたが、本日のイベントデーが加わりましたので、修正しました。また消耗品台について立て替えていたものが本日、講師から届きましたので、本日の資料に修正があります。総額が126,000円あたりになると思っております。これはトロフィーや記念品全てが入った額です。内訳を申しますと、江北高校での実施が、12,000円程度です。講師料が5,000円、消耗品6,650円、交通費が1,680円です。本日のイベントについては、講師料が5,000円×2、消耗品15,750円、交通費が2,020円で、合計が38,000円程度です。トロフィー、記念品制作、レプリカが1個7,500円×4で30,000円、記念品3,000円×16で48,000円、エンブレム・印刷代が700円×2で1,400円、版下データの作成で1,000円です、諸経費で5,000円です。以上の合計で85,400円です。今回は費用対効果も出しました。江北高校で、50名参加で、学生1人当たり220円くらいです。本日ですと、160円くらいです。なので、大勢の人数で実施した方がコストが安く済みます。また当初、学生に靴磨きセットを持参してもらうことを提案しましたが、いつの間にかこちらが道具を全部用意する事になっていまして、この費用が非常にかさんでいます。靴磨きセットはサッカー選手ならば持っていると思いますが、全員持参してもらうことでコストは2/3になります。次回からこの様に段取

りしていただければと思います。決定案はまたメーリングリストでお知らせします。

丸山：はい、何かご質問はありますか。

中塚：年度内の講習会の実施はもうなしですか。

神宮司：はい。そうです。

土谷：前期に配った回収袋の製作費は、中止になりましたので今回はいただかないことにしました。

丸山：では地域活動推進部において、何かございますか。

玉山：靴磨き講習会ですが、実施をしてみて分かりましたが、生徒の様子が少しずつ変わってきています。靴磨きのセットを生徒に持参するように生徒に言いましたが、スパイクの性質が以前とは異なっています。人工皮革になり、その中で靴磨きの道具を持つてくることは難しくなっています。中には自分のローファーを磨く子もいました。そこで、靴磨きの道具をどのようにしていくのかというところを考えなければなりません。それならば、靴を解体してリサイクルにしてサンダルを作った方が良かったとも思います。道具も少しずつ変わってきているので、昔のようにスパイクを大切に磨いて使う子が少なくなってきています。今後の課題として提案です。

中塚：この後のことは、後の議題の「リサイクルプロジェクトの進め方」でお話します。

4. 事務局（三ツ矢事務局次長）

■試合結果報告のフォーマットについて

対象：全クラブ

目的：報告時のミスの削減、記録・集計の迅速化(DUO 通信と同じ記載方法)

☆○月○日 (○) <○○○(会場名) (主催：○○) >

○部○リーグ チーム名 - (-,-) チーム名

(試合開始時間/主審名：主審所属チーム名：主審評価/副審1(副審1所属チーム名)、副審2(副審2所属チーム名))

得点者…チーム名：得点者

チーム名：得点者

警告…チーム名：警告者(理由)

退場…チーム名：退場者(理由)

☆11月12日(土) <都立豊島高校G (主催：都豊島) >

2部Uリーグ 立教池袋 4-3 (3-2, 1-1) 都豊島B

(11:15/加藤邦晃：立教池袋コーチ：4・4/松永陽太郎(立教池袋)、佐藤輝夕(都豊島))

得点者…立教池袋：臼井俊2、桜井英暢、若林佑帆

都豊島B：坂本篤洋、大久保幸也、久保田裕規

警告…立教池袋：若林佑帆(反スポ)

退場…なし

三ツ矢：提案が3つあります。1つ目は、試合結果報告のフォーマットについてです。メーリングリストに流すようになってから、試合結果報告の際のメールでの記載方法が異なるので、各チームで

統一したいと思います。形式は、DUO リーグ通信の同じものです。2つ目は高校名、チーム名の略称です。試合結果報告の際や、得点・審判ランキングなどの報告においてのチーム名が、報告者や集計者によって異なる事があるので、統一したいと思います。3つ目は、審判ランキングの記載方法です。前回の会議でもお話ししました。ランキング内の記載の優先順位としては、生徒、OB、教員です。

■高校名の略称について

対象：全クラブ

目的：類似する他のチーム
・学校名と区別するため
(外部の人も見るため)、
記録集計の迅速化

チーム名	略称名	チーム名	略称名
足立学園	足立学園	都立足立	都足立
郁文館	郁文館	都立荒川商業	都荒川商業
FC西巣鴨03	FC西巣鴨03	都立江北	都江北
学習院	学習院	都立小石川	都小石川
京華	京華	都立竹早	都竹早
駒込	駒込	都立豊島	都豊島
淑徳巣鴨	淑徳巣鴨	都立文京	都文京
昭和第一	昭和第一	都立向丘	都向丘
城西	城西	獨協	獨協
巣鴨	巣鴨	日大豊山	日大豊山
中央大学高校	中大高	豊南	豊南
筑波大附属高校	筑波大附	文京区中学選抜	文中選
豊島学院	豊島学院	立教池袋	立教池袋

→承認

三ツ矢：また、事務局の来年度の予算についてです。前回の会議で提案したのは、時給 1500 円です。今回の3つ提案をのんでいただけるのであれば、時給 1500 円としても、今年度の予算の 20 万円を下回る事が可能なのではないかと思います。

中塚：どうでしょうか。年間 20 万で良いのでしょうか。

→来年度事務局の予算は 20 万円に決定

議題Ⅲ. チェアマンより＝スタッフ会議（メールのやり取り）報告&審議

中塚：リサイクルプロジェクトの進め方と、2013 年度の組織改編についての話をしたいと思います。事前にスタッフで集まって会議を行う事が出来なかったのが、メールでのやりとりで行いました。「当事者意識の欠如、DUO 会議の位置付けの温度差、さらに次のメールにあるような代表者の意識をどうとらえるかも考えておきたいですね。」とあります。また、1月13日付で、都立豊島高校から提案がありました。丹羽先生の意見を聞きたいです。

丹羽：私は昨年度の3月まで、5地区の高校におり、4月から豊島高校に来ました。提案は書いてある通りです。私たちが一番重きを置いているのは高体連の3つの大会です。つまり、チームの強化と言うのは1番のものになります。但し私は、チーム全体の強化は、実際に試合に出る子の強化だと思っています。ですので、リーグ戦などでBチーム、Cチームの力が上がるというのは、非常に良いことだと思います。すいません、その前に1つ大事なことを言い忘れました。実はこのリーグ戦は、東京都から始まったのは2004年か、2005年だったと思います。それよりも10年も前からDUOリーグが始まっていたことに対して、正直に敬意を表します。

しかし豊島高校に来て試合を始めてみると、違和感を覚えました。試合ではない事や、お金の事です。予算がだいたい320~330万円で、去年は120万円程度の繰越金がある。これは普通、会計監査からすれば、許されないのではないかと思います。「こんなに余るのであれば、なぜこんなにお金を取るのか」という事になると思います。もちろん、受益者負担は当然です。今の生徒は比較的

裕福ですが、以前でしたら本当にお金は大変です。たかが 800 円かもしれませんが、それを出させ、それ以外にも例えば T リーグは 10 万円です。地区トップもそれくらいのお金がかかると思います。今回も豊島高校は 7 万円以上かかりましたが、お金は高校から出ました。これについては生徒にかかるお金はありませんでしたが、学校が出さなければ生徒からお金をすべて集めなければならない。それ以外にも生徒にもいろいろなお金を使わせるわけです。なるべく生徒にださせるお金は少なくしたいと思っていました。

しかし、DUO リーグだけ個人登録費を取るところから、おかしいと思い始めました。例えば靴磨き講習会についてですが、大事かもしれませんが、これは自分のところでも出来ますし、お金を使ってやるよりも、こういうところを削って、経費をなるべく少なくしたい。シンプルに小さいリーグにしていく努力はするべきなのではないかと思います。なので、この様な提案をしました。私の様な考えを持っている方は、少なからずいるともいます。本来ならば、全ての学校が参加すべきだと思います。技術に関する講習会や、審判講習会は試合に関するものなので、必要だと思います。しかしそれ以外のところを減らして、なるべくシンプルにしたい。実際に私がここに入ってきて、さっぱりわからなかったです。都立高校の先生は、外から来るわけですから、なるべくわかりやすいものにしたい。プログラムに関して、全員に配っていますが、果たして全員に必要なのかどうか。チームに 5 冊もあれば、120、130 冊で済むのではないかと。これらのことは、時間もかかるのですぐにこの場で決める事は難しいと思います。ですが、今年 1 年をかけて話し合ってください。

中塚：何が質問、補足、意見はありますか。

嶋野：お金の部分で、それだけのものが繰越されている事に対して、「余裕があるからこういう風に使っていこう」という方向で進めていくのか、「そんなに余っているのであれば削るのか」というところは、私は毎年、気になっております。議論の方向としてどちらにするのかは大事だと思います。また純粋なリーグ戦にすることに関しては、私もその方にした方が良いと思います。ただし、子供たちがそれ以外のところで関わることも大切なことだと思いますし、今の子供たちに欠けている部分だと思います。なので、お金の部分をどうしていくのか、という事を話し合った方が良いと思いますし、スマートにしていくべきだと思います。

小金丸：今、嶋野先生が言われたことに賛同しますし、丹羽先生の投げかけは大切な事だと思います。具体的に、リサイクルプロジェクトのことです。靴磨き講習会をやっているわけですが、時代とともにスパイクの質が変わり、選手が靴磨きの道具を持っていないと現実で、全クラブが必ず参加を義務化する事は必要なかなと思います。なくすという事ではなくて、この様な提案をする事は良いと思います。それを強制ではなくて参加したいチームが参加する方が良いのではないかと思いますし、ニーズを考えなければならないと思います。ニーズがなければ、経費削減も考えて、議論していく事が必要だと思います。

三ツ矢：学生の立場としての意見ですが、実際先生たちが、靴磨き講習会や栄養講習会があること生徒に対してどれだけ詳しく説明しているのか、という事が大事だと思います。私も高校生の時、毎日の練習に飽きる時もありました。その時にこの様な講習を受けて、新しい刺激になりましたし、その講習の事をまた部活で実践することで、チームとしての統一感、一体感も増したもので、必要なものであると感じました。もし先生のところで止めているのであれば、問題だとは思いません。

中塚：そういうことがあったので、全クラブ参加しようということにしたと思います。震災の影響もあったので、なかなかうまくいかないところもありましたが。

亀井：加盟費や登録費などは、日大豊山では3年前までは親御さんがお金を集めて出していました。そこで私が学校に掛け合って、チームの登録と加盟費など、チームとして参加できるお金は学校から出してもらえるようになりました。ただ、個人的な登録料は学校からでないので、高体連の2000円と、DUOリーグの800円は父母会費から出してもっています。リーグとしてお金に問題がないのであれば、個人登録費はなくす方向でお願いしたい。また、色々な講習会なども、絶対に役に立つことなので、機会があればと思っていますが、練習試合や他の予定があるとなかなか参加できません。なので、講習会などは存続して、参加できるチーム、したいチームが自主的に参加する方が良いのではないのでしょうか。

小金丸：繰り返しになりますが、ニーズがあまりないのに、それをリーグとしてやると言うのは、そこに携わる先生の負担は大きいと思います。ニーズがあるのは残しながら、ニーズがあまりないものに関しては考えていきたいと思います。

長山：高体連の登録とは別で、お金を取っている地区はありますか。

丹羽：少なくとも5地区はないです。

長山：だとするとなぜ2地区だけは、+αでお金がかかるのか疑問です。ニーズと言う話も出しましたが、どの先生方も自分のチームを強くする事は、1番重きを置いているところです。昨年の会議のときに、技術部でDUOリーグ選抜ということで、交流戦と言う形でやりました。しかし自分自身は、「意味があるのか」という提案は昨年しました。今年度、チームを強くするためにどうするのかと考えた時に、ゴールキーパー・ストライカー講習会の様な、生徒にとっても講習会に出れば得られるものが直結してあるようなものであれば、チームに還元できるので、お金をかける価値はあると思います。そう考えると、靴磨きなどは各チームでもできる事なので、直接チームの強化につながるかどうかは少し疑問です。

玉山：やはりチームをやっている以上は、1つでも上に行きたいというのは皆さん思うところで、控えのチームでも、前よりもレベルアップしたいというのは、指導者として当然だと思います。しかしTリーグとつながった以上は、普及の部分と強化の部分の両方の足枷をなくすというか、それぞれのチームの事情でやっていければ良いのではないのでしょうか。もちろんDUOリーグは10数年もやってきたことや、全国のモデルになっているので、また新たに見直すことも必要かと思います。靴磨き講習会や栄養講習会は大切ではないとは思いません。そういう事を知らないから、講習会を通して気付かせることも大事だともいます。ただ、個人的には3年間あったら、初年度を靴磨き、2年目を栄養講習会、3年目はまた違う何かという形で、段階的にやるのが良いと思います。

梶山：話が2つになっていますが、お金の面に関して言うと、やはり100万円を超える繰越金があるのは、組織として異常で、これは改善していく必要があると思います。その方法に関しては色々あると思います。ただ、今までのクラブから集めたものが残っているので、これをどう使うのかは、難しいと思います。現在の単純な収支で言うと、毎年20万円前後が余事になっており、多いと思います。お金の面に関しては見直しが必要です。個人登録費については、プログラム代と保険代で構成されていますが、その辺をどのように捉えるのかという事になると思います。リーグの在り方や講習会については、それぞれのチームのあり方によりますが、全て強制的になるとつらいです。

中塚：全体の話聞きながら、チェアマンからのコメントです。お金のことについてはおっしゃる通りで、異常事態をなんとかしないといけないと思います。なぜそうってしまったのかも含め、担

当者を中心にもう1回洗いなおしたいと思います。この問題はこの数年積み上がってきたように思います。なぜ DUO リーグが個人登録費をとるようになったのかというのは、2000 年度からプログラムを作るようになり、プログラム代をどのように出すかという事になりました。プログラムは各 DUO リーガー個人にフィードバックするメッセージを込めた大事なもので、その製作費は自己負担してもらう事で 500 円取っています。そこからスタートしているので、プログラムが1人ずついきわたらないことを前提とするならば、全てひっくり返るわけです。

先ほどからニーズと言う話が出ていますが、何もない状態からニーズを新たに生もうとするところから始まっています。スポーツの価値も、勝利だけがニーズとして強調されてきたかもしれないですが、もっと多様な側面がある事、ニーズを生み出してきたという事を、これまで DUO リーグはやってきました。そういうスタンスに対して、「やはりチームを強くすることなのだ、上につながったのだからそこに特化しないといけない」という風に舵を切るのであれば、ここで意思決定しないといけないと思います。ただ、DUO リーグは、大げさに言えば日本のスポーツ観を変えていくための試みです。ただ単にチームの勝利というだけでなく、スポーツの幅の広さを高校生年代からしっかり、大人も含めて、勉強して伝えていこうということで、積み上げてきているリーグです。しかしそれでも、チームが強くなれば良いと、そういう事になるのかどうか。少なくとも私がチェアマンでいる間は、そういう風にはさせません。お金に関しては管理部中心にやりますし、スタッフ会議に持ち帰らせてください。

丹羽：今チェアマンが「させない」と言っていました、それはおかしいのではないのでしょうか。みんながそういう風にしたいというのであれば、変えなきゃいけないと思います。言っていることはわかりますが、いろんな学校の事情があります。みんなのいろんなものを集めて、1 番やりやすい方法を考えるべきだと思います。私は外から来たので、余計にそう思います。もちろん DUO リーグのイベントは素晴らしいです。このようにやれば本当に良いと思います。しかし意見を聞いていると、ひずみが生じています。そこははっきりと考えていかなければならないと思います。

三ツ矢：その意見、ニーズと言うのは生徒のものですか、先生のものですか。

丹羽：大人の意見に決まっています。でも生徒はやりたいんです。だから私は困っているんです。生徒がやりたくないのであれば、私はさっさと辞めています。「先生のところで止めているのは問題」と言っていました、それは当たり前です。生徒には勝手にやらせるわけにはいかないからです。必要であればやらせます。もちろん生徒が1番です。しかし、たくさんの選手を使えばたくさんの個人登録費がかかります。

中塚：つまりそこが学校教育と相いれなくなってきたところです。最初からこうなることは分かっていたので、DUO リーグは学校とは別であるというところからスタートしました。ただ、実際は学校の単位で参加しているので、どうしても学校の問題がセットになっています。もし熱心な先生が異動してしまって、他の先生が来た時、そのクラブはどうなるんだという事です。学校だけの発想だと駄目になってしまう可能性もあります。しかし DUO リーグに加盟するクラブは、教員が1人異動しようがしまいが、確固たる組織をこのリーグ戦に関わりながら作って行って、50年後、100年後にしっかりしたものを残して行こうという事です。あくまでも先生として学校としての枠しか描けないのであれば、難しいかもしれませぬ。

嶋野：今のお話の中で、分かる部分と変わってきている部分があります。当然クラブを単位にして参加しているという事が根底にあるのは分かっています。しかし時間の流れの中で、トップリーグであったり、T リーグとつながったり等もあります。その中で、DUO リーグがどう変わっていくのか

という事を、どこかで示さないといけないと思います。リーグとしての運営は素晴らしいなど、色々なところから聞きます。ですが T リーグとつながった事に対して、どのように対応していくのかを考えていく事も大切だと思います。

玉山：先ほどのお金に関しては、私も 2 シーズン前に提起したので、検討していただければと思います。ですが不安なところが 1 つあります。私立の学校が、理念のメールのやり取りの中で、異なるところが出て、加盟はするが、チームは参加させませんというのが、1 つありました。そのチームは今、T リーグにいます。しかし長い年月をかけて地区トップから DUO に落ちてきた時、このリーグの理念に賛同できないから参加しませんが、T リーグは狙いますと言った時、難しい問題が発生すると思います。しかし地区リーグを経由してでしか上に昇格できないのであれば、リーグの理念に賛同しなければいけないのか。賛同しなければやめてくれという形になってしまうと、不安です。理念を変えるというわけではないですが、その問題も考えていかないといけないと思います。

中塚：玉生先生どうですか。今の話はストレートに出てきている話だと思います。

玉生：その通りだと思います。2 地区にいと、この様に加盟費を払っていないと、T リーグに参加できないという状況になっています。昔であれば高体連の大会でベスト 8 に入れば T リーグに入れましたが、加盟していないチームがいきなり T3 に入って、落ちてきたときには地区トップリーグでも受け入れられないと思います。そういうチームが出てくるのはまずいと思います。

中塚：これは今すぐどうかする、と言う話にはならないですが、2012 年度で任期切れになるので、その間にお金の面では加盟費や個人登録費の問題、どのようにリーグに所属するのかという問題などを詰めていこうと思います。2004 年度スタートを目指して準備していた東京都ユースリーグ構想ではどのクラブも東京都ユースリーグに加盟する構想でした。しかしそうはなっていないので、どうしていくかを、プロジェクトチームを作って検討しましょう。スタッフ会議がコアになりますが、丹羽先生や、他にも意見をお持ちの方はメンバーに入ってもらい、何回か顔を突き合わせて、メールのやり取りもしながら、今後どうしていくのかを話し合いたいと思います。

丹羽先生には、すごく言いにくいことを言っていただいて感謝しています。やらなければいけないことと、スリム化しないといけないところとあるので、整理してやっていきたいと思います。年度初めのこの会議では修正案は出せません。2012 年度は、2011 年度と同じ形でやっていきます。2012 年度中に、今後についての方向性を示していきたいと思います。

リサイクルプロジェクトの進め方ですが、基本的には今年度と同じ形で行います。各クラブでは、高校生にニーズを生み出してもらいたいし、出来るだけ参加の方向で考えてもらいたいですが、それぞれの事情で難しいこともあると思います。靴磨き講習会への参加は努力目標にしたいと思います。栄養講習会やテーピング講習会についても、2012 年度もなるべく早く計画し、準備を進める形にします。試合の勝ち負けだけではないというスタイルは引き続き継続したいと思います。

玉生：お金についてですが、今は余ったお金は次年度に繰り越しとしていますが、単年度で清算して、余ったら各クラブに返すのもすっきりすると思います。T リーグはそうしようと話は進んでいます。

中塚：そのことも含め、1 年間かけて原稿スタッフ+α でプロジェクトチームを作って進めていきたいと思っています。

土谷：「リサイクルプロジェクト=靴磨き講習会」となっているのがそもそもの違和感です。「こういうのがあったらいいんじゃないか」というのが出てきた時に、それを具体化するのがリサイクルプ

ロジックだと思えますが。靴磨き講習会を雛型に、企画を出して実践するという流れを、クラブの筋トレとしてやってきたと思えます。その辺に DUO らしさというのがあると思えます。そこに対して考え載る先生が提案してもいいのではないのでしょうか。

中塚：「あれを削れ、これを削れ」ではなくて、という事ですね。

土谷：はい。それはすごく貧しい発想だと思えます。当然予算は削った方が良いですが、発想は削ってはいけません。その部分をすくい、ブラッシュアップするチームとしてリサイクルプロジェクトが続くのであれば、私もサッカー出身の人間ではないですが、関わっていけると思えます。

中塚：つまり「DUO リーグ将来構想プロジェクト」ですね。その中にリサイクルプロジェクトの今後も含めて、お金も含めて、やっていきたいです。ぜひ土谷さんにも入ってきたいです。

三ツ矢：岸事務局長からの提案です。そもそも予算案がない事が問題です。各事業がこれだけのことをやるから、これだけのお金が必要だというのがないので、ちゃんと作った方が良いと思えます。

土谷：単純に普通の事業としても、来年度の企画案がこの段階で並んでないと意味がないと思えます。予算が余る、余らないという以前に、その方が問題だと思えます。

中塚：本来であれば、今日そのような話が出てくるはずですよ。

土谷：そうであれば集金の金額も決まらないと思えます。

中塚：ここへきて、組織の不備や引き継ぎの不十分さからやっていたことができなくなっていった事も含め、色々問題が出てきました。将来構想プロジェクトで引き取り、話を進めていきたいと思えます。2012年度も従来通りやっていきます。では全体を通して何かありますか。

岸：前回の会議でもお知らせしましたが、3月31日に南三陸の歌津中学校を招いて、筑波大附を会場にして、チャリティーマッチを私たちのクラブが主催してやります。チームが強くなることも大切ですが、高校生にこの様な意識がある事を伝えて頂きたい。それが形として体験できるのが3月31日に企画したものです。支援金をいくらかおいていき、サッカーで遊ぼうというスタンスのものです。震災から1年経ち、被災地には4,5回行っていきますが、何も進んでいません。高校生にも参加、協力していただければと思えます。具体的なことは、メーリングリストでお知らせいたします。

玉生：地区トップリーグのグループ編成です。3位以内にトップチームが入らないと昇格できないという条件で、やっています。しかしTリーグの2012年度は、資料にある形で行う事になりました。T3を16チームにするには、地区トップリーグから2チームを上げなくてはならないという事になり、豊島に対しては昇格条件を満たしていませんが、16チームにするという事で昇格してもらう事になりました。2012年度の地区トップリーグのグループ編成は、会議を行い決まりました。新規参加の三菱養和BとFC東京Bは強豪クラブとなっています。強豪クラブの定義は、プリンスリーグ関東以上のリーグに所属しているクラブを指します。そこがBチームを出すときに、どのようにするかという話になりました。話合いの結果、地区トップリーグからの参戦になりました。2013年度からは20チームにしたいので、それに合わせて昇降格も考えていきます。今年度から、BチームもTリーグに昇格できるようになりました。2013年度から地区トップリーグへ複数チーム参加する事が出来ない事になりましたので、これはお知らせしてやっていきます。な

ので、地区トップリーグに2チームあるチームは、片方のチームがTリーグに昇格できなかった場合、もう片方のチームには降格してもらいます。また地区トップリーグ以上のリーグでは、上位チームと下位チームが同一リーグに存在する事、上位チームを下位チームが越えて存在する事は出来ない事になっています。そこをDUOリーグに当てはめていくかどうかとも課題かと思えます。

佐藤：来年度も靴磨きを実施するという事なので、それを踏まえた上での話です。ニーズと言う事ですが、私達も考えています。それに応じると言うことで、分かりやすく靴磨きということをやっています。玉山先生のおっしゃったように、合皮が多く革ではないところの対応も、私たちも考えなければいけないことなので、来年度考えていきます。また最後に1つですが、DUOリーグというサッカーが豊かにできる環境は素晴らしいです。ですが、生徒が靴磨き講習会を知らないのはまずいと思います。例えばサッカーをやらなくなった時に、それがきっかけで仕事になったりする事もあります。1度、1年間学生に知ってもらおうという事を、先生方に心していただきたいと思えます。

中塚：はい。では最後に高校生オブザーバーから、各クラブ1名ずつコメントをお願いします。

渋谷（昭和一）：この様に各高校の先生方が考えて、一生懸命やっただいている事に、今日初めて参加して分かりました。僕たちもチームの強化に一生懸命になって、先生たちに恩を返せるようにやっていきたい。

上野（郁文館）：自分達がいつも試合をしているDUOリーグが、様々な人たちによって支えられていることが分かりました。とても良い機会になりました。ありがとうございました。

本橋（都小石川）：中学校2年生からDUOリーグに参加していますが、先生方の協力など、知らない部分が多くあり、ありがたいと今回の会議で思いました。これからも1試合1試合大切にやっていきたいです。

大原（筑波大附）：今回初めて参加して、自分達が毎週のようにDUOリーグで経験を積めるというのは、先生たちが他の話し合いのおかげだと思えました。感謝をして試合をしたいと思えます。

井上：すいません。後1つお願いします。来年度の継続登録、または加盟の手続きにおいて、重要な書類もあります。継続登録については3月8日までにウェブ上で登録し、振り込みをお願いします。新規登録に関しては、追加登録になりますので、詳しいことは書類に書いてありますので、ご確認ください。ハンドブックの配布日が4月2日16時までです。

→ JFAへの継続登録は3月8日まで。新規登録は書類参照

中塚：ケニアとつながっているみたいなので、岸事務局長からのコメントを。

土谷代読：「ありがとうございます。チーム強化が第一のリーグになるのであれば、私は事務局を辞めたいです。これまで10年以上関わってきましたが、将来構想プロジェクトにはぜひ入れてください。」とのことです。

議事録作成：三ツ矢
確認・一部修正：中塚義実

<DUO 会議資料より 一部引用>

補足6. 「プロ意識を持ったボランティア」の話

2000.10.18.(中塚)

2000DUOリーグ通信 No.17(後期第7号)

先週末はドタバタしました。「通信」「ではない通信」で連絡した試合のうちいくつかは実施できないことがFAX送信後判明し、急遽電話連絡で組み合わせを変更せざるを得ない状況に陥りました。

なぜそういうことになるのでしょうか？

これに関するチェアマンからのメッセージがありますので、各クラブ代表者はしっかりお読み下さい。「スポーツをささえる」とはどういうことかに関する良いテーマです。すべてのDUOリーガーもこれを読んでしっかり考えて下さい。各クラブへの宿題もあります。よろしくお願いします。

ところで、またもや朗報です。Jユース選手権予選を兼ねた関東ユースサッカーリーグ第2次リーグに出場していた三菱養和がレイソル青梅に1-0で勝って2次リーグを突破し、準決勝に進出しました。11月3日の準決勝の相手は横河SC。勝てば、決勝の相手はフォルトナ前橋対ヴィヴァイオ船橋の勝者です。あと2勝でJユース選手権です。がんばれ！

チェアマンよりー「プロ意識を持ったボランティア」たれ！

DUOリーグの試合日程は、各期はじめに各クラブ代表者から提出される日程表をもとにして競技担当が編成し、広報担当が通信等で連絡することになっています。先週末のゲームは「通信」で連絡した後、試合前日になって実施できない試合があることが判明し、急遽電話連絡で訂正することとなりました。各期はじめに各クラブの代表者から提出された日程表をもとにして作成しているはずなのに、なぜそういうことになるのでしょうか？

もう一つ。後期リーグ戦プログラムが、後期リーグも半分を経過した今ごろになってようやく印刷屋に入稿されました。8月から準備していたはずなのに、なぜこのような事態に陥るのでしょうか？

DUOリーグを運営するために、競技・広報の他に会計担当を置き、登録費・参加費の徴収と配分(審判手当ての支給等)を行っています。プログラム、審判講習会、フレッシュマンリーグ、DUOリーグ選抜についても担当を決め、進めていくことになっています。このように業務を分担することはリーグの発展にともなう必然的な運営形態であり、各担当が責任を持って取り組むことで、リーグは一つのシステムとして機能するのです。

各担当は皆、他に本業を持っており、「ボランティア」としてこれらの仕事に取り組んでいます。本業を全うしながら「ささえる」仕事に取り組んでいる人がいることをまずはご理解下さい。

その上で、「ささえる」人々に敢えて苦言を呈します。

本業が「忙しい」ことを理由にするのは無責任な「甘チュア」の戯言です。「ボランティア」だからこそ、仕事は手分けして協力して行い、与えられた仕事には責任を持って、「プロ意識」を持って取り組まねばなりません。そうでなければ、ボランティアベースの活動が続くはずがありません。「忙しい」のは誰でも同じです。それを「忙しい」と取らず、「充実している」と前向きに考え、「プロ意識を持ったボランティア」として気持ちよく取り組んで下さい。必ず「ささえる喜び」が得られるはずですよ。

さらに、担当者以外のクラブ代表者に苦言を呈します。皆でDUOリーグをささえているのだということを今一度ご確認下さい。原稿の提出が遅れたらプログラムは作れません。各クラブの日程表が中途半端なものだったらDUOの日程は作れません。参加費が振り込まれなければ、運営できません。まだ過去の参加費を滞納しているクラブがあります…。

過ぎたことの非を問うのはやめましょう。それよりも、今一度、全員がリーグ運営の当事者としての意識をもって、後期リーグ後半戦に臨んでいただきたいと思います。(以下略)

補足7. DUOリーグ審判講習会を始めたころの話

2000DUOリーグ通信 No.25(後期第15号)

2001.1.31.(中塚)

大変遅くなりましたが、12月23日の試合結果と最終成績、DUOリーグ会議の議事録、DUOリーグ選抜の活動に関する文書をお送りします。DUOリーグ選抜については、2月9日までに各クラブから3名ずつ推薦していただくことになっています。ご確認ください。

DUOリーグ審判講習会開催までの経緯を通信に載せておきました。是非お読み下さい。講習会には高校生54名、OB2名、教員2名、その他6名の計64名が申し込みをされ、東京協会へ報告しました。まだ若干名なら追加申し込み可能です。2月5日(月)までに中塚までご連絡下さい。(中略)

DUO リーグ審判講習会開催の経緯について

今回はじめて開催される標記講習会については、以下のような経緯があったことをご承知おき下さい。いろんなことを考えさせられるテーマだと思います。

(財)東京都サッカー協会審判委員会育成部長よりFAXが届いたのは、12月23日のDUO会議の翌日でした。一部引用します。よくお読み下さい。

*****以下引用*****
(前略)このたび審判委員会事務局に講習会講師派遣の申請が届きましたので、下記について問い合わせ方々確認させていただきます。

1. DUOリーグのおかれている所属について

文京区・豊島区中心のユースサッカーリーグとのことですが、リーグ母体は(財)東京都サッカー協会に第2種チームとして及び個人の登録が為されているか否か

2. 高体連との関係はどうなっているか

以上の件につき、(中略)いくつか確認する必要があるとのことになりましたのでお伺いたします。なぜならば、委員会は都協会に加盟所属する連盟(区市連盟・学連等を含む)に対するサービスの一環として講習会の講師派遣を行っています。任意団体から講習会開催要請があったとしてもとても組織の人的構成的に受け入れられる余裕がありません。また、一部団体を受け入れた場合は他の全てについても同様に扱わなければ不公平となってしまいますのでとても出来ません。これは公認審判員の派遣についても同様な考えで行われております。

従いまして今回の申請については、DUOリーグの置かれている立場が明確でないと思われまので、現時点では基本的には講師派遣は困難であろうと考えます(後略)

意味はよくわかります。さっそく(といっても26日頃だったでしょうか)育成部長に電話連絡し、問い合わせの件について説明しました。1についてはリーグに加盟するDUOクラブ名をいくつか挙げ、いずれも協会登録している団体および個人であるということ、2については高体連ともJCYとも関係ない任意団体であるが、各連盟の理解を充分得ながら活動しているということを説明しました。また、東京都全域にユースサッカーリーグを公認リーグとして立ち上げる動きがあること、そのことは(財)東京都サッカー協会理事会において承認された事項であること、その際、DUOリーグは有力なモデルとして理事会でも認知されていることなどもあわせて説明しました。

理解していただくことができました。だから2月18日に開催できるのです。

理解していただけたということがどれだけ大きな一歩であったか、よくお考え下さい。まだ「DUOリーグ」は任意団体でしかありません。しかし、審判講習会開催母体となり得るだけの“公共性”を備えていると認められたのです。と同時に、我々も「協会Association」の一員として、全体に対して

貢献していかななくてはならないと感じるのです。もちろん、「東京都ユースサッカーリーグを設立すべく行動」しなければならないことは言うまでもありません。(以下略)

補足9. 試合日程表の重み&高校生レフェリー

2003.9.15.(中塚義実)

2003DUOリーグ通信 No.13 (後期第3号)

チェアマンより①：試合日程表の重みについて

本来ならば、組み合わせを決定したあとはホームチームが全て準備するのがリーグ運営の基本ですが、グラウンドの乏しい地域のリーグ戦ということ鑑み、DUOリーグではこれまで、全体で日程の調整をしてきました。DUOリーグの試合日程表は、開幕前に各クラブ/チームから出していただいた調査をもとに、競技担当が何日も、何時間もかけて作った「大作」です。

できあがったスケジュールは、非常に重みのあるものです。審判手当もこれによって分配されます。参加チームは審判派遣も含め、この日程表に即して試合を消化します。「お天道様」が相手なら仕方ありませんが、それ以外の理由による変更は、本当にどうしようもない場合以外は極力避けてください。余裕があると思っけていても、どこかにしわ寄せが来るということを、我々は過去2回続けて出してしまった未消化試合から学習しているはずです。また、リーグ終了間際にどたばたと試合を消化することがリーグ戦の主旨に反することも学習しています(「スポーツの生活化」を理念の最初に掲げていることを思い出してください)。

日程表を重視してください。特に、以下のようなケースは要注意です。

1) 大人の都合(「高体連の審判が入ったので付き添えない」等)による延期は、原則NOです。

定められたゲームを消化することは参加チームの義務です。代わりの付添(責任能力のある大人)を確保してください(そのために多くの大人にサポートしてもらえようような組織を作ってください)。

2) 「メンバーがそろわないので」は理由にはなりません。

リーグ期間を通して一定のメンバーを確保できることもリーグ参加の条件です。DUOリーグでは万一の場合に備えて「特別枠選手制度」や「35分の期限付き移籍制度(同一クラブ内であれば、前半または後半のみの出場を認める)」などで緩やかに対応しています。また「未登録選手の出場」も、今期までは認めています。人数が足りなかったら「野球部から借りてくる」ことも可能です。

日程表に従って、相手と審判と会場が、用意して待ってくださることを重視してください。

3) それぞれの事情を言い出したらきりがありません。

試験中ならともかく、「試験直後だから」とか「テスト1週間前だから」というのは、本来は(調査時点ですら)延期理由にはなりません。少なくともリーグ期間中は、勉強とスポーツをバランスよくというのがDUOリーグのねらいです。それぞれの事情を言っけては試合消化は不可能です。理念に掲げた「スポーツの生活化」は、「勉強の生活化」とセットで成立することです(試験前に急に勉強するのは「生活化」ではありません)。

それでもなお、調査時点ではわからなかったことなどで試合が開催できないことが出てくると思っけています。こうした突発的な出来事に対しては、連絡を密に取りながら、柔軟に対応していきましょう。

雨天延期も含め、諸般の事情で予定通り試合が行えない場合は、当該チームで連絡を取り合い、12月21日までに消化してください。審判は第3者が望ましいのですが、無理な場合は「互いに」行ってください。また、リーグ戦は、FIFA主催大会の基準(つまり「世界の常識」)にあわせて、「少なくとも48時間は試合間隔をあけること」を原則としてください。ただ単に試合を消化すればいいのではありません。早めにグラウンドを手配し、連絡を取り合っけて進めていっけてください。

マッチメイクできたら、競技担当・審判担当・会計担当及びチェアマンに必ずご連絡ください。
グラウンドあき情報もお待ちしています。ご連絡ください。

チェアマンより②：高校生レフェリーについて

DUOリーグの（東京都ユースリーグも同様）理念には、「ささえる人材の育成」が高らかに謳われています。その一つとして、DUOリーグでは審判講習会を2月に開催して有資格審判員を育てるとともに、高校生審判でリーグ戦を行うことを奨励しています。

しかしながら毎度のことですが、今期のゲームでもすでに何件か、高校生審判に対する苦言が耳に入ってきています。問題があることは十分承知です。だからといって、大人が代わりに吹くだけでは、次の世代は育ちません。プレーヤーがゲームを経験しないと育たないのと同じように、審判もゲームを経験しないと育ちません。「できないからやらせない」ではなく、「どうすればできるか」を考えましょう。

「どうすればできるか」のアイデアを、お願い風に述べます。できることから始めてください。

1) 普段の練習から、高校生が笛を吹く場面を設けてください

プレーヤーはトレーニングを積んで週末のゲームに臨むのに、審判がいつもぶっつけ本番では、それは無理というものです。例えばミニゲームをするときに高校生に笛を持たせる等、方法はいくらかもあると思います。体育の授業や球技大会の審判活動も含め、普段からどんどんやらせてください。

2) 審判担当者をあらかじめ決めておいてください

その場で急に言われても、心の準備はできません。プレーヤーが前の日から気合いを入れてゲームに臨むのと同じように、審判も前の日から充分気合いを入れて臨むように、心の準備の時間をとってあげてください。そして彼には「このゲームは君のゲームなのだ」ということをしっかり認識させ、大きな自覚と責任感、そして誇りを胸に、ゲームに臨ませてください。

3) 試合中、審判担当チームの指導者は、本部席で生徒のジャッジを見守ってあげてください

試合が始まったら全権を握るのはレフェリーです。たとえばじめて主審をする高校1年生であっても、彼の判断は尊重せねばなりません（それぐらい大きな責任を持つということです。この責任感の自覚が、高校生を育てます）。

高校生審判に対しては、試合前、ハーフタイム、試合後にアドバイスのチャンスがあります。場合によっては試合中も呼んで指導する必要があるかもしれません。まずは審判担当チームの指導者が現場について、この任務を果たしてください。さらに、その場にいる大人は、他校の生徒であっても気がついたことがあればアドバイスしてあげてください。DUOリーグ全体で育てていることを忘れずお願いします（ライン引きやグラウンド整備も同様です。学校は関係なく、指導していきましょう）。

4) 試合後の評価の歳に、両チームの指導者はコメントしてあげてください

当該チームの指導者が審判に対してコメントできるのは、試合後の5段階評価の場面のみです。このとき、数字だけでなく、どこをどう改善すれば良くなるのかを前向きにコメントしてあげてください。試合中興奮して、ベンチから審判に対してクレームをつけるようなことはしないでください。

5) 卒業生を活用しましょう

「アマチュアに引退なし」はプレーヤーだけではありません。元DUOリーガーを活用して、どんどん高校生の活動に関わってもらいましょう。